

令和7年度広島の拠点性強化に向けた懇話会 開催記録

1 開催日時

令和7年9月8日（月）10:00～12:00

2 開催場所

広島市役所 本庁舎 10階 市長応接室 2

3 出席委員（順不同・敬称略）

佐々木 猛 広島商工会議所副会頭（池田晃治会頭の代理出席）

小田 宏史 広島経済同友会代表幹事

西川 正洋 広島県経営者協会会長

越智 光夫 広島大学学長

前田 香織 広島市立大学学長

松井 一實 広島市長

4 議事内容

広島の拠点性強化に向けて（共助の精神に基づく「女性がいきいき活躍できるジェンダー平等なまち」づくり）

5 主な意見等

- ・ 育児に加え、最近では介護に悩んでいる方も多いので、これからは介護に関する従業員の負担軽減制度についても充実させていく必要があると考えている。
- ・ 働きやすい職場や子育てしやすい制度を作っていく上では、企業の生産性を上げることが重要ではあるが、従業員の少ない中小企業にとっては負担も大きいため、行政の支援や補助が必要なのではないか。
- ・ 育児や介護の制度を充実させていくことは、企業としては、優秀な人材の確保や流出を防ぐということが目的となるが、そこには問題が生じてもやり抜くという経営者の気持ちが欠かせないものであり、経営者に向けた意識啓発が必要であると感じている。
- ・ 「えるぼし」認定や「くるみん」認定の制度自体が、雇用にどの程度効果があるのか、認定件数が少ないのであれば、その理由は何なのかということを、この制度を作る側と活用する側の双方がしっかり考えていかないといけない。
- ・ 従業員がこの企業で長期間働いてみようと思えるような環境を作ることが、昨今特に大事になってきていると思う。
- ・ 女性が継続的に勤務したいと思えるような企業の体制作りに当たっては、現場に密着したコミュニケーションが必要である。

- 女性の声を反映させて、ジェンダーフリーやダイバーシティなどを実現していくことにより広島を魅力的なものにしていくことが必要である。
- 女性の意見の反映については、女性の本音を聴けるような組織体で声を聴くということは重要である。また、女性の中に男性が入っていく、あるいは、男性から見て女性を増やしていくための視点も重要である。
- DXの推進により、例えば製造業などでもロボットの活用が進んできており、男性しかできない作業が減ってきている。広島には魅力的な企業があり、そこで女性が活躍できる場面が増えてきていることを積極的に発信していくことが必要である。
- 魅力ある大学づくりに関して、それぞれの大学が地域の人材を育てるような教育に取り組んでいくことが必要であり、今後この地域をどうするのか、どんな人材教育を行っていくのかといったことを地域ぐるみで考えて取り組んでいく必要がある。
- 地方創生に関して、大学でも学生が地域に定着するために企業と連携して様々な取組を行っているが、アピールができていないと感じており、そういったPRも地域ぐるみでできたら良いと考える。
- 現在市で推進している「200万人広島都市圏構想」は、企業としても経済活動をする上での実態に基づいた発想であると考えている。
- これから将来夢を持つことできるような地域の環境づくりを、経済、金融、大学、行政などがそれぞれの強みをお互いが生かし、一体になってやっていくことが重要である。